

モ

ーニングラウンジ with DH



DXを意識した訪問歯科診療

演 者：大引 佳奈（石狩市・高松歯科医院）

コメンテーター：高松雄一郎（札幌歯科医師会会員）

当院は「健康は幸福の基礎である」との考えをもとに、「幸せが生まれる医院」を理念に掲げ、現在約30名のスタッフで診療をしております。日常の社会でも、デジタル化の恩恵を受け、それなしでは機能しない社会になっておりますが、当院では、DX（デジタルトランスフォーメーション）の考えのもと、デジタル化を發展させ、より良い歯科治療を提供するとともに、働く私たちがやりがいを持ち社会的に幸せを感じられる歯科医院を目指しています。

外来診療では、CTやマイクロスコープ、口腔内スキャナーなどのデジタル機器を積極的に活用することで、患者へ効果的に歯科診療を提供するとともに、チェアタイムの短縮や材料費削減などに効果がでております。また、高齢社会を支えるために、口腔機能検査および訓練を積極的に取り入れ、健康寿命の延伸に寄与したいと考えておりますが、当院では、日本老年歯科学会が提供する口腔機能低下症アプリ『EXAM7』を導入いたしました。それまでは、検査結果を用紙に記載して管理していましたが、iPadを用いて場所を選ばずチェアサイドでも訪問先でも入力できるため、患者にとっても私たちにとても負担が少なくスムーズに診療を行えています。訪問歯科診療においても、生産性を高めた診療を通じて、患者へのより良い歯科治療の提供ができるように励んでおります。

本日は、当院での特に訪問歯科診療時の口腔リハビリテーションの取り組みについて発表します。



モーニングラウンジ

大会第2日目（B会場） 9：00～10：30

当歯科医院における新人歯科衛生士
育成プログラム

演 者：昆 美奈（札幌市・医療法人社団メモリアル会ポテト歯科医院）
 コメンテーター：石田 智毅（札幌歯科医師会会員）



当院は以前から新人歯科衛生士への育成プログラムを導入しております。ここ数年、歯科界では新卒歯科衛生士が就職した際、本人が思い描いていたものと、臨床現場で求められる実践技術や職場環境にギャップを感じ、リアリティショックのため早期に離職することが問題となっています。当院では、一般的な問題点を抽出し、育成プログラムには院内スタッフ全員が関わる必要があると考え、指導の中心となる担当歯科衛生士と他職員の役割分担を決定する。月ごとの指導内容と、臨床現場での実施時期の決定。自主的にTEC作成の練習をする環境を整えることなどを歯科医師と相談し、約1年間のスケジュールにてプログラムを作成し実践しました。



また、新人歯科衛生士のスキルの習熟度について歯科医師を含むスタッフ全員で共有することで新人歯科衛生士のスキルアップはもちろん、院内全体のレベルアップにもつながっております。

令和3年4月に就職した新人歯科衛生士が1年間の育成プログラムを終了し、現在は自信をもって患者と接する歯科衛生士の奮闘、スタッフの関わり方について紹介させていただきます。

規格性のある資料は歯科医師と歯科衛生士の
重要なコミュニケーションツール

演 者：宮野栄利香（札幌市・さいとう歯科室）
 コメンテーター：齊藤 仁（札幌歯科医師会会員）

歯科医療の目的は患者の口腔の健康を通して全身の健康に寄与し、生活の質を向上させることで、そのためにはう蝕と歯周病の発症を未然に防ぎ、進行を抑制すべきであることは異論のないところではありますが、「言うは易く行うは難し」で、実際にそれを実行するのは簡単なことではありません。う蝕と歯周病の病因論を正しく理解し、歯科医師と歯科衛生士が役割分担をし、協力し合いながら患者と向き合う必要があります。当院は2000年の開業当初から欠損や修復補綴を未然に防ぐためにどうしたらいいかを考えることを常とし、そのためには歯科医師と歯科衛生士の関係は上下関係ではなく、パートナーという位置付けで、お互いを尊重しながら診療を行うことを心がけています。

そこで必要不可欠なのが規格性のある口腔内写真とデンタルX線写真、それと歯科衛生士の業務記録です。これらの資料をもとに患者情報を共有し、疾患の発症や進行を未然に防ぐために何をすべきかを常に話し合っています。実際の臨床の現場において規格性のある資料をどのように活用し、歯科医師と歯科衛生士がコミュニケーションをとっているかをお話したいと思います。

